

美術教育講座 樋口 健介 准教授



「つくること」について、考える



キーワード 絵画制作 / 造形ワークショップ / こどもの造形表現 / 美術

どのような研究をなぜ行っているか

①絵画制作と発表

油彩、アクリル、水彩、顔料などの幅広い画材で、キャンバス、麻、綿、木、紙などに描いた作品を作っています。実制作と発表を通じて、「描くこと」や「つくること」について、その意味を考えたいと思います。また絵画研究室では、学生と作品制作を通じて対話することで、同様に「つくること」の意味をみんな考えています。

②「つくること」でだれかと関わる

1人でつくるだけではわからないことがあるのではないかと考え、多様な人が気軽に参加できる造形ワークショップを児童館や放課後等デイサービス、福祉施設などで実践しています。近年は、レジャージェミリアの取り組みなどを参考に廃材を活用したワークショップを開発、研究を行っています。また、視覚に障がいのある方と一緒に作品を制作する取り組みを実践しています。



「そっちこっちどっち？」
アクリル・麻布・麻紐 / 194.0×162.0cm



「手でみるワークショップ」スタジオぐるり
視覚に障害のある人・ミーツ・アーティスト / 2023年12月10日

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

美術が嫌いだったり、「描くこと」や「つくること」が苦手だったりする人は、意外と多いです。あんまり肩張らずにみんなが美術を面白がる世の中は、楽しいのではないかと考えています。こどもから大人まで様々な人が「描くこと」や「つくること」を楽しめるような取り組みを行っていきます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・【展覧会企画】トライ&トリップ-視覚に障害のある人・ミーツ・アーティスト- /アトリエみつしま/ 2024年2月10日-2月25日
- ・見えない人と見える人が共同で作品をつくる場の構築日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-23K00249>
- ・話すと、何かがうまれるぞ。～『つくる』といわない『つくる』こと～ /KIITO (デザイン・クリエイティブセンター神戸) 2023年7月26日
- ・そのほかの取り組みについて (<https://researchmap.jp/k-higuchi>)